

日本病院薬剤師会 精神科専門薬剤師

坪内 清貴 先生

金沢大学附属病院

出身地：石川県金沢市

資格取得年：2016年4月

1. 資格取得のきっかけは何でしたか？

後に師匠となる前田大蔵先生に言われるまま精神科病棟の担当となって、言われるまま学会発表して試験を受けて、諸先輩方に助けていただきながら論文を書いて、せっかくだから試験を受けようという流れになりました。目の前の壁を順番に越えた結果とか言うとかっこいいですが、行き当たりばったりじゃねーかと言われるとその通りです。

2. 資格取得の最大の難所はどこでしたか？

精神科関連の論文2編の提出です。うち1編は筆頭著者でなくてもいいのですが、そもそも精神科の薬剤に関する論文を執筆する機会というのはなかなか少ないと思われるので、執筆された同僚の先生方にはとても感謝しております。

3. この資格のやりがいは何ですか？

取得者の数は少ないですが、現場では一定のニーズがあるところです。

睡眠障害やせん妄、緩和薬物療法などに関して、精神科以外の病棟担当薬剤師から相談を受けることが多いので、力になれると嬉しいです。

4. 普段のお仕事でこの資格はどのように活用されていますか？

他職種の認知度は特に低い気がします。あんまり低いので、ギラギラしたオリジナルバッジでも作ってアピールしようかと考えています。笑

今後は睡眠薬や抗精神病薬の使用に関する簡単な手引きのようなものを精神科医らと共同で作成できればと考えています。

5. 資格を取得して良かったな、と感じる事柄はありましたか？

先日、一般病棟でせん妄がみられた症例に対して病棟薬剤師を通じて処方変更を提案した際に、「精神科専門薬剤師の助言です」と伝えたところ、担当医が納得し処方変更案を採用していただいたそうです。

6. 患者さんに接する際に気を付けていることはありますか？

近づきすぎず、離れすぎず、適度な距離をおいて接するようにしています。近づきすぎると

患者の自立の妨げになりますが、離れすぎると信頼関係が築かれず、本心を打ち明けてもらいにくくなるためです。

あとは、金沢弁を服薬指導に積極的に取り入れております。治療において重要な仲間意識を持ってもらいやすくなります。(ただし金沢出身の患者さんに限る)

7. その際に印象的だったエピソードはありますか？

指導した患者さんがバリバリにネイティブな能登弁で、「ちょっと何言ってるか分かんない」というフレーズが口をつきそうになりました。

8. その他苦心している事、気を遣う事などはありますか？

主治医や他のスタッフと話が食い違わないように注意しています。

患者さんからの質問に回答する際は、「〇〇さんからはどのようにアドバイスされましたか？」と確認したり、「私の考えですが」と前置きするなどしています。

また、薬剤情報提供書を患者さんが希望された際は、治療に差し支えないかを必ず主治医へ確認した上でお渡ししています。不安が強い場合では、副作用や注意事項などの内容に振り回され拒薬や不安症状の増悪に繋がる可能性があるためです。

9. この資格を目指している後進へ何かアドバイスを！

「精神科の薬なんて効果あるの?」「精神疾患とかちょっと抵抗あるわ…」と、やや避けられがちなこの分野ですが、眠れなければ睡眠薬が使われますし、せん妄が起きれば抗精神病薬が使われます。がんなどに罹患することでうつ状態となれば抗うつ薬や抗不安薬が使われることにもなります。精神科の薬は精神科だけで使用されるものではないため、まず少しでも関心を持ってもらえると嬉しいです。

10. この資格の取得要件を教えてください。

- 特定の学会の会員であること
- 特定の学会における学会発表が3回以上(うち1回は発表者)
- 精神科領域の学術論文が2編以上(うち1編は筆頭著者)
- 精神科専門薬剤師認定試験で合格していること
- 精神科薬物療法認定薬剤師の資格を有していること

※精神科薬物療法認定薬剤師の取得要件…実務経験5年以上、精神科領域の講習会への出席(40時間)、精神疾患患者に対する指導実績50症例、精神科薬物療法認定薬剤師認定試験の合格など